



学校だより

平成30年 5月31日
練馬区立田柄第二小学校
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-ky.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-ky.ed.jp

教育目標:元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.484

Never say can't

校長 谷田 弘子

5月21日(月)から24日(木)まで、6年生と一緒に、岩井移動教室に行ってきました。3日目は雨が降りましたが、大降りにならず、すべて予定通りにメニューをこなしました。海方面の移動教室なので、魚の開き体験、地引き網体験、サンドスキー、磯遊び、地層観察など、たくさんの体験をしました。さすが6年生で、昨年度の学習を生かして、集団生活を十分楽しむことができました。きっと、この経験をこれからの学校生活に生かしてくれるであろうと期待しています。

さて、最近、児童の日頃の言葉を聞いていて、大変気になることがあります。それは、いろいろな場面で、いとも簡単に「できません」「無理です」という言葉を使っていることです。でも、よく考えてみると、まだ実際にやっていないのに、あるいは過去に試したこともないのに、なぜ、「私にはできません」「わたしには無理です」と言えるのでしょうか。さらに気になることは、その「できません」「無理です」という言葉を「やりたくない」という本当の気持ちの言い訳として使っているように思えることです。これが最近私が気になる児童の言葉です。

ここで一人の人物を紹介します。その人の名は吉澤ヨシノリと言います。彼は、現在56歳(平成30年5月現在)の元プロボクシング選手です。彼は、高校卒業後、ボクシングジムに入り、19歳で華々しくデビューし、その年の新人王になります。将来を期待され、20代の時は、何度も日本チャンピオンや東洋チャンピオンに挑戦しますが、度重なる怪我などで一度も勝つことができませんでした。普通の人ならば、チャンピオンを目指すどころか、ボクシングを続けることさえあきらめ

るでしょう。しかし、西澤さんは諦めません。負けるたびにさらに激しい練習を自分に課し、チャンピオンを目指し続けます。そして、31歳の時、4度目の挑戦で、初めて日本ミドル級チャンピオンになります。その後も、敗れても敗れても挑戦し続け、その度にチャンピオンに返り咲き、40歳までチャンピオンベルトを獲り続けました。これは驚異的なことです。ボクシングはたいへん激しく危険なスポーツであることから、37歳になると引退することになっていました。しかし、西澤さんの情熱と活躍がルールを変えさせました。チャンピオンであるか、チャンピオン戦に出場することが認められている選手は37歳を超えても現役を続けることができると改められたのです。しかし、40歳になったばかりの平成19年1月、タイトル防衛戦に敗れ、とうとう持ち続けてきたチャンピオンベルトを失い、引退することになりました。

でも、ここで諦めないのが吉澤さんです。オーストラリアでは年齢制限がないことを知ると、オーストラリアのプロ認定試験を受けて合格し、現役を続けていったのです。この西澤さんが座右の銘として、言い聞かせていた言葉が、「Never say can't」です。直訳すれば、「けっして『できない』とは言わない」となります。西澤さんは、「できるかできないかは、自分で決めることではない。人間はやってみなければ分からない。」と言っていました。

自分で自分を見限ることにならないようにしてほしいです。みんなの夢や希望は自分自身のものです。そして、それを実現させるのも自分自身です。そのために自分を信じて、行動してほしいと思います。

Never say can't